平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金（認知症対策総合研究事業）
「認知症のための縦断型連携パスを用いた医療と介護の連携に関する研究」
分担研究報告書

「有明圏域認知症疾患医療センターの患者調査結果に関する考察と、認知症連携パスの展開を見据えた老年歯科の地域住民への啓発活動」

研究分担者　石川智久（熊本大学大学院生命科学研究部　神経精神医学分野）
研究協力者　宗　久美（熊本県地域拠点型認知症疾患医療センター
（荒尾こころの郷病院））
田中みどり（ふみ歯科医院）

○**研究要旨**　我々は、荒尾市・玉名市を中心とする熊本県北部の有明医療圏域を管轄する熊本県地域拠点型認知症疾患医療センター（以下、疾患センター）とともに、かかりつけ医・歯科医との認知症高齢者医科-歯科連携システムの構築をすすめている。医科連携の成果を探る目的で、疾患センターのこれまでの受診状況と、患者居住市町別について調査した。調査期間は平成 23 年 4 月から平成 26 年 12 月までである。その結果、受診件数、相談件数ともに急増しており、圏域における疾患センターの存在が、地域に定着してきていることがわかった。患者の居住市町別では、開設当初は、その所在地である荒尾市近辺からの患者が多かったが、年を追うごとに圏域全体からの受診へと広がっており、圏域のかかりつけ医との連携が進んでいることがわかった。また、疾患センター所在地である荒尾市からの紹介受診は、徐々に減っていることから、荒尾市域のかかりつけ医の認知症診療に対する理解が深まり、かかりつけ医の認知症診療スキルの向上に、疾患センターが一定の役割を果たしていることが推察される。このことから、疾患センターの役割は、専門医療の提供のみにとどまらず、紹介／逆紹介を繰り返す中で、かかりつけ医や医療スタッフへの教育的効果が期待できると考えられる。

また、医科－歯科連携を深めることを目標に、地域高齢者を対象に認知症と歯科口腔ケアに関する地域住民への啓発を目的として、地域で実施されている高齢者サロンへ参画し、地域住民への啓発活動を行った。今後は、地域連携のための活動を充実、継続させるために、地域包括支援センターでの予防歯科事業、保健師歯科検診の機会や、民生委員、認知症サポーターの活性化などと連携の輪を広げていくことが重要であると思われる。

A. 研究目的

圏域のかかりつけ医との連携の成果を考察することを目的に、疾患センターの患者受診状況、相談件数、患者の居住地別受診状況を疾患センター記録から調査する。地域在住高齢者への認知症診療・歯科診療への関心を高めてもらうことを目的に、認知症疾患医療センター連携担当者および歯科医師による、地域高齢者サロンでの啓発活動を行う。

B. 研究方法

疾患センターの相談記録を後ろ向きに調査し、受診数、相談件数、患者の居住地別集計をおこなう。調査期間は平成 23 年 4 月から平成 26 年 12 月までである。熊本県荒尾市において、学校区ごとに民生委員などを中心とした高齢者向けのデイ

ケアサロン「いきいきサロン」が定期的に開催されている。今回は北増永区と猫宮区の協力を得て、サロンに参加している地域在住の高齢者を対象に、認知症疾患医療センター連携担当者および歯科医師による、高齢者・認知症と歯科衛生の重要性に関する講演会を開催する。

（倫理面への配慮）

患者の個人情報を個別に取り扱うことはせず、個人が特定されることはない。また、高齢者いきいきサロンへの参加は自由であり、途中参加・途中退室は自由である。

C．研究結果

調査期間中の外来件数は、平成 23 年度　８８６件、平成 24 年度　１１０１件、平成 25 年度１１９２件、平成 26 年度（～12 月まで）１０８５件であった。新患患者数は、23 年度　１５７件、24 年度　１６９件、25 年度１６０件、26 年度　１３７件であった。鑑別診断目的での受診は、23 年度　１５４件、24 年度　１６２件、25 年度１４５件、26 年度　１１９件であった。疾患センターへの電話相談件数は、23 年度　４０５件、24 年度　６７８件、25 年度　８８８件、26 年度６６１件であった（図１）。

調査期間中の新患患者の居住地を圏域内の市町別でみると、23 年度は、荒尾市５５％、玉名市２２％、長洲まひ１２％などであった。24 年度は、荒尾５０％、玉名２７％、長洲１６％などであった。25 年度は、荒尾３７％、玉名３９％、長洲１５％　などであった（図２～図５）。さらに、実際の患者数の推移をみると、荒尾市は、23 年度８７人、24 年度８４人、25 年度５９人 26 年度４６人と、減少しているのに対し、玉名市は、23 年度３５人、24 年度４６人、25 年度６２人、26 年度　５８人、　長洲町は、23 年度１８人、24 年度２８人、25 年度２４人、26 年度２３人と、横ばいもしくは増加していた（図６）。

医科－歯科連携の地域住民への啓発活動は以下のとおりである（参考資料１）。

会場：熊本県荒尾市　北増永区公民館、猫宮区公民館（7 月 16 日のみ）

時間：午前１０時から１２時３０分

スタッフ：荒尾市洗心会在宅連携担当看護師、疾患センター連携担当者、地域かかりつけ歯科医師

内容：健康体操、口腔体操、食事会・嚥下見守り、血圧測定、ミニ講演会

講演会内容：

平成 26 年

2 月 27 日　初回ごあいさつと口腔体操

5 月 22 日　歯周病原菌と虚血性心疾患、栄養管理、認知症予防、もしもの時の意思表示や老いの準備について

7 月 16 日　美味しく食べるコツ

7 月 24 日　嚥下障害の話と認知症の食異常のサイン

9 月 25 日　食中毒と歯科、口腔ケアと疾患予防、荒尾市の在宅や施設入所事情、歯科訪問診療の現状について、認知症の受け入れ事情

参加人数：各回　10～20 名

D．考察

疾患センター発足から４年が経過したが、外来件数、相談件数ともに急増しており、疾患センターの存在は地域に確実に定着していると考えられる。新患患者数は、新患予約制となっているため、年間１６０件前後で一定しており、そのほとんどが、認知症疾患の鑑別依頼であることから、地域のかかりつけ医が疾患センターへ紹介する理由の多くが、認知症の有無・疾患鑑別の目的であることが推察される。

圏域内での患者住所別集計では、開設当初は疾患センターの地元荒尾市からの紹介が５５％と半数以上を占めており、当初は荒尾市のかかりつけ医の利用が多かったことが推察される。しかしその後、年を追うごとに荒尾市からの紹介は率・実数ともに減少し、隣接する玉名市からの紹介が倍増している。荒尾市人口およそ５万５千人、玉名市人口およそ６万８千人であり、荒尾市医師数１２３人（平成２３年末現在）、玉名市医師数１３６人（平成２３年末現在）、人口規模も構成もそ

れほど違わないなかで、玉名市側からの紹介が増加している理由として、玉名郡市のかかりつけ医の、疾患センターに対する認知度が高まったことが考えられる。また同時に、荒尾市域のかかりつけ医は、疾患センターへ紹介する患者層を選択してきており、疾患センターを利用していく中で、かかりつけ医自身の認知症診療スキルアップが図られてきていることの表れではないかと推察される。あるいは、荒尾市域の医療・介護スタッフの働きも、スキルアップされていることも考えられる。すなわち、疾患センターを中心としたかかりつけ医との連携、情報交換が、かかりつけ医に対して教育的効果が表れていると考えられる。この点については、今後さらに調査、分析が必要である。

医科－歯科連携を踏まえた地域啓発活動については、従来はこのような住民対象のサロンなどは、行政主導で行われる取り組みがなされていたが、マンパワーの問題や運営費用の問題、実施主体の事情（担当者の異動や転勤など）により、地域に根差した継続的な活動にならない現状にしばしば直面化する。しかし、地域では、高齢者自らが運営するサロンなどがすでに展開されていることがあり、いずれも同好会などから自主的に運営されていたり、地域自治のなかで運営されていたりする。参加者も常時 10－20 名あり、定着度の高さを示している。今回の我々の活動は、このような地域での活動のなかへ、専門職スタッフが、地域住民の一員としてかかわりを持つことで、より地域に根差した活動へ展開できる可能性を示した。

E．結論

地域拠点型認知症疾患医療センターを中心とした地域かかりつけ医との連携は、圏域全体の疾患センターの認知を高めたと同時に、地域かかりつけ医や医療介護スタッフのスキルアップにつながることが示唆された。

地域活動の一環として実施されている地域高齢者サロンへ、専門職スタッフが一地域住民として関わることは、認知症高齢者を地域で支えるシステムづくりに対する一つの新たなアプローチとなりうる。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1.論文発表

Patient-related factors associated with depressive state in caregivers of patients with dementia at home.
Hasegawa N, Hashimoto M, Koyama A, Ishikawa T, Yatabe Y, Honda K, Yuuki S, Araki K, Ikeda M.
J Am Med Dir Assoc. 2014 May;15(5):371.e15-8.

Is sense of coherence helpful in coping with caregiver burden for dementia?
Matsushita M, Ishikawa T, Koyama A, Hasegawa N, Ichimi N, Yano H, Hashimoto M, Fujii N, Ikeda M.
Psychogeriatrics. 2014 Jun;14(2):87-92.

シンポジウム3「誤診」「認知症の過剰診断･過小評価」
石川智久
精神科診断学 7巻1号 Sep.2014 Vol.1 No.1 pp. 43－49, 日本精神科診断学会

2.学会発表

「就学後に視知覚認知障害が明らかとなった発達障害の一例」
北村 伊津美, 堀内 史枝, 福原 竜治, 石川 智久, 上野 修一, 池田 学
高次脳機能研究 34 巻 1 号 Page70-71(2014.03)

「SMQ を用いた軽度アルツハイマー病患者の生活障害の検討　軽度血管性認知症患者との差異も含めて」
田中 響, 橋本 衛, 福原 竜治, 石川 智久, 矢田

部 裕介, 遊亀 誠二, 松崎 志保, 露口 敦子, 畑田 裕, 池田 学
老年精神医学雑誌 25巻増刊 II Page160(2014.05)
「認知症の介護負担感と Sense of coherence の関係」
松下 正輝, 石川 智久, 小山 明日香, 長谷川 典子, 一美 奈緒子, 池田 学
老年精神医学雑誌 25巻増刊 II Page217(2014.05)

「早期診断・早期支援に向けた『認知症初期集中支援チーム』の取り組み 荒尾市における初期集中支援の実際 チーム員の立場から(解説)」
宗 久美(熊本県認知症疾患医療センター)
認知症予防研究 18巻1号 Page42-48(2014.07)

「三大認知症における重症度と家族の介護負担感の関連」
小山 明日香, 石川 智久, 松下 正輝, 長谷川 典子, 橋本 衛, 池田 学
日本社会精神医学会雑誌 23巻3号 Page263(2014.08)

「認知症患者における体感温度調査 認知症患者は寒がりになるか」
甲斐 恭子, 橋本 衛, 石川 智久, 遊亀 誠二, 田中 響, 畑田 裕, 池田 学
日本神経心理学会総会プログラム・予稿集 38回 Page106(2014.08)

「認知症地域連携における荒尾市歯科医師会の取り組み」
田中 みどり(荒尾市歯科医師会)
老年歯科医学 29巻2号 Page85-86(2014.09)

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1.特許取得
該当なし
2.実用新案登録
該当なし
3.その他
該当なし